

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数353件(前月比0.5、前年比1.4)と1月の17,167件をピークとし減少しています。前年比は1.4で、ピークの症例数は近年では最も多かったのですが、2月に激減して以降の例数は、逆にここ2年では少ないようです。人吉からの報告が110件(定点あたり22.0)と全体の三割を占めています。以下天草(同9.43、同66件)、有明(同4.75、同38件)、菊池(同4.25、同34件)、に多いようです。県下全地区より最少でも7件の報告があります。年齢は大きな偏りはないようです。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数3,610件(前月比0.97、前年比1.30)で3月と比較して増減が少ないようですが、ここ数ヶ月では伝染性紅斑の増加が目立ちます。昨年末26件であったのが1月39件、2月42件、3月64件、4月73件と増加しています。もう一つは、ロタウイルス胃腸炎です。1月の3件から4月の83件と急増しています。この数年では4月にピークがあるようで推移の経過が必要です。地域別の予防接種の実施状況と流行の考察ができればと考えます。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 72件の報告です。前月比0.5、前年同月比1.2と例年通りの推移です。1歳児を中心としてほぼ2歳以下の報告ですが3歳、6歳もあります。八代(定点当たり4.25、17件)に多いようです。山鹿、阿蘇を除き県下から報告はありません。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数82件(前月比1.2、前年比1.3)と、昨年並みの動きで減少していますが今後、夏に向け増加して行くものと思われます。1歳が42件の報告で半数を占めています。次に3歳の12件が多く、一桁ではありますが幅広い年齢分布です。菊池(定点あたり5.8、報告数29件)が目立っています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数391件(前月比0.8、前年比1.5)です。ここ数年、年ごとに多くなっています。4-5歳を中心として、3歳~8歳で多いようです。有明(定点あたり15.6、78件)、八代(同11.75、47件)、に多いようです。山鹿、阿蘇、御船を除き、全県下より二桁の報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,798件(前月比1.2、前年比1.2)とやや増加していますが推移は例年と同様と考えます。年齢では1歳にピークがありますが、0歳から5歳まで3桁の報告数です。多くの地区から三桁の報告があります。報告が多いのは山鹿(定点あたり91.5、183件)、菊池(同59.2、296件)、有明(同57.8、288件)です。
5. 水痘 : 報告数55件(前月比0.7、前年比1.5)と、例年同様の推移です。昨年秋から増加傾向がありましたが、今年になり減少傾向に転じたようです。山鹿(定点あたり2.5、5件)、人吉(定点あたり2.0、6件)、有明(定点あたり2.0、10件)に多いようです。一方で阿蘇・水俣・天草からの報告はなく、これらの地区は過去も報告が少ないようです。1歳を中心としていますが、幅広く報告がありますので、定期接種対象年齢への予防接種の周知が必要かと考えます。
6. 手足口病 : 報告数232件(前月比1.4、前年比0.9)とやや増加していますが例年並みの推移と考えます。菊池(定点あたり12.2、61件)、天草(同9.25、37件)、熊本(同6.06、97件)に多く見られます。阿蘇・水俣の地区からは報告がなく、御船・八代・宇城からの報告も少ないようです。

7. 伝染性紅斑 : 報告数73件(前月比1.1、前年比12.2)と、昨年12月から一貫して増加してきています。有明(定点あたり7.40、37件)、菊池(同6.50、11件)に多いようですが、阿蘇・御船・八代・人吉からの報告はなく、また宇城・天草も1件と、県北中心の報告です。ピークは6歳にありますが、全年齢よりの報告があります。
8. 突発性発疹 : 報告数178件(前月比1.4、前年比1.6)と、報告数も含めて推移は例年並みと思われます。阿蘇・御船の二地区を除き県下から報告があります。3歳2例、4歳1例の報告がありました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数59件(前月比1.2、前年比1.6)と例年同様の推移です。半数は天草の32件(定点あたり8.00)です。次に菊池(同2.4、12件)が多いようです。1歳を中心として幅広い年齢からの報告です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数18件(前月比0.8、前年比0.9)と昨年からの低水準が続いています。報告があるのは、有明6件(定点あたり1.20)、菊池4件(同0.80)、山鹿2件(同1.00)です。その他、天草から2件(同0.50)、1件の報告は熊本・御船・八代・水俣からありました。8歳からの6件の報告が最も多くなっています。1歳以下の報告はありません。2歳から9歳を除きすべての年齢層で報告があります。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数82件(前月比0.9、前年比2.7)熊本70件、菊池1件、有明11件の報告です。年齢別では20~49歳、60~69歳代にピークがありますが、ほぼ全年齢層に発症しています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数62件(前月比1.2、前年同月比1.3)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、男性に35件と多く見られています。年齢別は、男性は20~29歳に16件と多く、女性では15~24歳に18件と多く見られています。地区別は、熊本が44件と多く、次いで有明8件、八代4件、宇城3件、御船2件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数18件(前月比0.9、前年同月比1.2)で、前月比は僅かに減少し、前年同月比は僅かに増加しています。男女別は、男性に10件とやや多く見られています。年齢別は、男性は20~70歳以上と幅広く見られ、女性も15~70歳以上と幅広く見られています。地区別は、熊本が13件と多く、次いで有明2件、菊池、御船、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は9件(前月比0.8、前年同月比1.5)で、前月比は減少し、前年同月比は増加しています。男女別は、男性に5件とやや多く見られています。年齢別は、男性は20~49歳に見られ、女性は15~44歳に見られています。地区別は、熊本に5件と多く、次いで御船2件、八代、宇城に各1件でした。

4. 淋菌感染症： 報告数は16件(前月比1.5、前年同月比0.9)で、前月比は増加し、前年同月比は減少しています。男女別は、男性に12件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、男性は20～44歳に、女性は15～24歳と若年層に見られています。地区別は、熊本14件と圧倒的に多く、次いで有明2件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数22件(前月比 1.5、前年同月比 0.9)でした。17件(77%)が70歳以上でした。乳幼児では1-4歳で1件です。人吉(4件、定点あたり4.0)、熊本(14件、定点あたり2.8)が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数3件(前月比 1.5、前年同月比 0.8)でした。比較的少ない発生状況です。60歳以上が2件で、小児は1-4歳で1件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数0件(前月比 +0、前年同月比 +0)でした。昨年5月以降は報告がありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数2件(前月比 +2、前年同月比 0.7)でした。小児は1-4歳で1件、5-9歳で1件です。70歳以上0件です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数1件(前月比 1.0、前年同月比 1.0)でした。小児、70歳以上0件です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数1件(前月比 0.3、前年同月比 +1)でした。5-9歳で1件です。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件(前月比 +0、前年同月比 +0)でした。ここ3年報告がありません。
5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)：
報告数83件(前月比 2.6、前年同月比 6.4)でした。昨年同時期の6倍以上の発生で、重症例の発生など注意が必要です。0歳で9件、1-4歳で67件、5-9歳で6件で、熊本(77件、定点あたり15.4)、人吉(4件、定点あたり4.0)が多くなっています。

届け出対象感染症

- 1類感染症： 報告はありませんでした。
- 2類感染症： 結核：27件
- 3類感染症： 報告はありませんでした。
- 4類感染症： レジオネラ症：2件
- 5類感染症： アメーバ赤痢：2件
カルバペネム耐性腸内細菌感染症：1件
侵襲性肺炎球菌感染症：4件
梅毒：5件
百日咳：17件
風しん：2件
麻しん：1件